

オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(39) —ハイドンのオラトリオ四季—

1. 始めに

前報(38)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも述べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。
アナログ盤は下記を使用します。

EMI EAA・377-9

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ四季

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

配信は STAGE+から上記と同一の曲と同種の曲を選択します。

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ四季

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュ・バロック・ソロイスト

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ四季

カール・バーム指揮ウィーン交響楽団

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

オラトリオ四季のカラヤン指揮ベルリンフィル盤は、合唱陣の広がり感のあるスケールの大きな迫力や広い収録環境の残響を伴うソリスト達の伸びのある歌唱が聴ける演奏です。カラヤンらしい、ダイナミックな盛り上がりや、ハイドンの交響曲を忍ばせる温和な表情まで、ダイナミックレンジの大きい演奏です。

STAGE+のオラトリオ四季の配信のガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストの演奏は、収録年代は不明ですが、音質は明晰であり、古楽アンサンブルらしいソフトな演奏で、ソリストの歌唱も合唱陣も落ち着いた演奏です。

同じく STAGE+のカール・ベーム指揮ウィーン交響楽団の演奏は、収録年代は不明ですが、音質はよく、十分な解像度やウィーン交響楽団の爽やかな音質が聴き取れますし、ソリスト達の歌唱は収録環境の間接音を伴って自然な表情が再現されています。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくっており、アナログ盤は、カラヤンらしい、ダイナミックな盛り上がりや、温和な表情まで、ダイナミックレンジの大きい演奏です。これに対し、STAGE+のガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストの演奏の音質は明晰であり、古楽アンサンブルらしいソフトな演奏であり、ベーム指揮ウィーン交響楽団の演奏も音質はよく、十分な解像度やウィーン交響楽団の爽やかな音質が聴き取れ、ソリスト達の歌唱は収録環境の間接音を伴って自然な表情が再現されています。

以上